

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493800138	事業の開始年月日	平成21年10月1日
		指定年月日	平成21年10月1日
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター 横浜南山田		
所在地	(〒224-0026) 横浜市都筑区南山田町3969		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日		評価結果 市町村受理日	平成28年5月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

認知症対応型として地域に根ざし、全職員が認知症のプロとしての誇りを持ち自分たちが持っている知識や知恵を活かし、地域貢献を目指している。

超高齢化社会に対応し、地域になくはならない存在感のある事業所として、学習を怠ることなく、常に向上心をみがいている。

職員はご利用者本位、ご利用者の心に寄り添ったケアを心がけ、安心安全な生活が送れるような業務に徹している。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成27年12月22日	評価機関 評価決定日	平成28年3月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】

この事業所は、横浜市営地下鉄グリーンライン東山田駅から徒歩5分のところにある。周りは幹線道路に囲まれ交通量も多いが、少し中に入ると河川やサッカー場など憩いの場もある。法人は教育から介護まで多角的に運営している大手企業であり、事業所としては開設10年目であるが、平成21年に事業所名が変更されている。

【認知症のプロとしての自覚】

管理者は「職員は認知症のプロ」であるとの自覚が持てるよう、毎月の定例会の中で研修を行っている。外部の研修や医療関係者の講座も欠かさず受講し、職員に伝達研修を行っている。地域の認知症支援の核になれるよう地域包括支援センターとの連携を模索しており、地域に対しての研修会などを企画している。認知症相談を中心に、地域への貢献を実践している。

【職員の連携】

管理者と職員、ケアマネジャー、事務職との連携がよく、働きやすい職場となっている。利用者のケアに対する意見を「宿題」と称し、書面で情報を上げることで職員がより利用者を観察し、自分たちのケアを見直す機会となっている。管理者も職員の話をよく理解し自主的な運営を任せるなど、風通しの良い職場になっている。地域の同業者との連携もよく、よいところはどんどん取り入れ、認知症のプロとしての自覚が持てるよう研鑽を積んでいる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階「その人らしさを大切に」 2階「笑顔と安らぎと暖かさを」	社是と経営理念は毎朝朝礼時に唱和している。昨年の外部評価結果から理念についてフロア会議で話し合い、フロアごとの理念を作成した。理念を大切にしながら、日々のケアに生かすよう努力している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会長、民生員、ケアプラザと密に連絡を取り、地域行事などのお知らせを頂き積極的に参加している。11月12月に地域内保育園や中学校に来て頂き、初めて交流を図った。	町内会に加入し、地域の行事「虫送り」や正月の獅子舞などが来所する。ニチイ祭りでは、地域の方々に「認知症について」の講演会を行い、納涼会には婦人会の方々が盆踊りを披露してくれた。11月に保育園の園児が来てお遊戯を踊ってくれ、12月には中学生が演劇を披露してくれた。ネイルや庭掃除などのボランティアも来所している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ニチイ祭りや運営推進会議などで、認知症の理解をテーマに講演会を行っている。また、認知症家族で悩んでいる地域の方へ認知症対応などの相談等受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者家族からの要望や意見は謙虚に受け止め、施設内会議で話し合い検討し実施している。	運営推進会議は、2か月ごとに町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者家族などの参加を得て開催している。事業内容についての質疑や町内行事などについて話し合っている。認知症についての理解が進むよう、地域の相談窓口としての周知を広めている。	

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実地指導の際、担当者が親身に相談にのってくださり、その後も実状を踏まえたアドバイスを頂いている。また、ケアプラザ、グループホーム連絡協議会等の会合に積極的に参加している。	運営推進会議録の行政への提出については実地指導の際に相談し、今後は窓口を持参することとした。介護保険の更新申請書類を窓口へ届けたり、地域包括支援センターと協力して地域の認知症講座の企画をした。講演会では地元警察の協力も得た。グループホーム連絡協議会に参加している。	
---	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会を定期的実施し、身体拘束をしないケアを徹底している。 日中は玄関は開放。入り口はご利用者の安全のため、ご家族の了解のもとに施錠している。	毎年法人の研修があり、12月に「拘束について」の伝達研修を行う。言葉かけに常に注意しており、不適切と思われる言葉はホワイトボードに掲示し、全員に注意喚起している。玄関は開錠しているが、ユニット入り口は施錠している。外出したい気配を感じると、職員が付き添って散歩に出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス、会議等で高齢者虐待について学習会を実施し徹底した虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、ケアマネージャーは権利擁護が必要とされるご利用者の関係者と話し合い支援している。職員は介護福祉士試験の勉強などで個々に学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際、重要事項説明書、契約書等十分な時間をかけ説明し合議と納得を図っている。		

10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会を定期的 に開催し、意見や要望を頂き会 議等で話し合い反映させてい る。 ご家族来訪時にも日常生活、健 康状態等を伝えながらご意見を 頂いている。	毎年法人で行うアンケートや運営推進 会議、イベント後の交流会などで意見 が出るとその都度改善を行う。毎月の 「たより」に本人の様子だけでなく、 イベントや行事のお知らせもしてい る。職員の離職や異動についての意見 があり、イベント時に全職員が自己紹 介を行うことを決め、実行している。	
----	---	---	---	---	--

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行うホーム会議、カンファ レンス等で、職員からの意見を 聞き、その場で話しにくい内容 であれば別機会に直接聞き取 る。またはリーダーを通して話 してもらい反映している。	毎月のホーム会議にパート職員も出席 し、職員は自由に意見を出している。 欠席の職員には議事録を回覧する。申 し送りノートにも自由に書き込みがで き、物品の購入の希望は、リーダーが 取りまとめ、管理者に伝えている。 「利用者の洗濯物を間違えることが多 い」との意見があり、名前の確認を徹 底することにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりが いなど、各自が向上心を持って働けるよう職場 環境・条件の整備に努めている	個々の職員の能力、性質に合わ せた声かけ、激励を心がけてい る。またキャリアアップ制度で の評価で給与引き上げややりが いをもって働けるよう取り組ん でいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていく ことを進めている	社内では入社時研修、社内フォ ローアップ研修があるが、施設 内では職員研修年間計画に沿っ た研修をおこなっている。外部 研修については全職員に周知し 希望者は参加している。		

14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>横浜市グループホーム連絡会の講習会参加。ケアプラザの講習会、地域他グループホームとの交流を図っている。</p>		
----	--	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント後、カンファレンスでご本人の経歴、既往歴や家族構成等を伝え、今後ご本人にとって安心安全な生活が送れるようケアプランを作成し実行に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望時や契約時に、ご家族として悩んでいること、困っていることに傾聴しアドバイスさせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントでのご本人の状況、ご家族からの情報を丁寧に聞き取り、サービス開始前にご本人にとって何が必要かを話し合いサービス提供をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度にもよるが、日常生活の中で、ご利用者が出来ることと出来ないことを見極め、出来ることは積極的に行って頂けるよう働きかけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や来所時に、ご利用者の様子をお知らせしている。また、日常の生活状況を月に1度、全ご家庭にお手紙として送付している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所の際、ご本人の生活上で大切にしていた物、生活暦、家族構成を聞き取り会話の中にとりいれている。また、ご友人やご親戚の来所時もお家族に繋げ、ご本人が受け入れやすくなるようにしている。	入所前にセンター方式のアセスメント表を使い、生活歴などの情報を家族から得ている。現役時代の同僚が定期的に面会に来る時は湯茶のもてなしを行っている。家族が面会に来やすいよう、利用者の情報を毎月の便りの中に個別にお知らせしている。家族が撮影した風景写真や、現役時代の思い出の品々を部屋に飾り、昔のことを思ってもらおうと支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事の時だけではなく日常的に1階,2階の交流をおこなっている。また、一人ひとりの状況にあわせた関わり合いができるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、ご連絡をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族とも話し合い、ご利用者本位のケアができるようカンファレンス等で検討している。	日常の何気ない会話の中から思いを聞くことが多い。入浴時や夜間、散歩など1対1になった時に情報を得ている。表現しにくい利用者は表情やしぐさなどから推し量り、カンファレンス時に情報を共有している。コーヒーが飲みたいと話した利用者と、散歩の折にカフェに立ち寄りたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際のアセスメントやご家族からの情報をまとめ、情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に一日の状況、健康状態、食事量、排泄等詳しく記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、短期目標、長期目標を設定。ご利用者に即した生活が出来るよう話し合っケアプランを作成している。	カンファレンスの前に全職員は「宿題」として利用者に対する気づきを書面で提出している。それをもとに課題を見つけ、担当者会議を行い、介護計画を更新する。家族には来所の際に意向を聞いている。医療との連携は「健康管理記録」で変更点をカンファレンスの際に確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、管理日誌、往診記録等に記入し情報共有し、申し送り事項は申し送りノートに記入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と電話や手紙でまたは来所持に相談させて頂き、ご本人には会話の中で要望を聞き、その時々生活状況に応じたサービスをおこなっている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節ごとの町会行事に積極的に参加している。近くにご利用者が通える公園等がないため、近隣を散歩しながら地域住民との交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時、協力医療連携の説明をし、全員月2回の往診を受けている。歯科往診、月2回。訪問看護毎週1回。	利用者全員が協力医の往診を望み、協力医の往診を受けている。協力医は24時間対応である。眼科や整形外科などは原則家族対応で、緊急の場合等は職員がタクシーで対応するが、実費負担となる。「健康管理記録」で看護師や職員と連携を取っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の心身の状況は往診記録に記入し、訪問看護師に伝えて個々の状況を把握し、看護を受けていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先担当医にご利用者の容態をこまめに聞き、ソーシャルワーカーと今後の方向性を話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し相互で取り交わしている。かかりつけ医とご家族が、今後の方向性を話し合う機会を随時もうけている。	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」で説明している。重度化した場合は、医師が家族と話をし、看取りの同意書を取り交わす。職員はできる限りの支援を行っている。ムンテラと称した担当者会議を行う。看取りの支援をした利用者は3名いる。	職員に対し法人の方針を明らかにして、ターミナル研修やグリーフケアに取り組まれることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者容態急変時の基本連絡ルート、マニュアルを作成し、会議等で徹底、訓練している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の非難訓練の実施。4月に消防士を招き、地域住民、ご利用者家族15名が参加し夜間時消防訓練をおこなった。10月に施設内で地震非難訓練をおこなった。	家族と地域の方6名、消防署の協力を得て、4月に夜間想定火災避難訓練を行った。10月には職員と利用者で地震を想定して訓練を行った。2階の居室には「避難梯子」が目につくところに置かれている。備蓄は3日分の水や食料を保管し、リストで管理している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当施設では、ご利用者には敬語を使うことを徹底し、ご利用者の人格を尊重する言葉で対応している。	職員は認知症の方々に、利用者の尊厳を大切にする「本人本位の支援」を行うことを学習している。現場では何事に対しても否定をせず、敬語を使うことで、人格を尊重している。個人情報に関しては法人のコンプライアンス試験が年2回あり職員は全員受けている。書類等は鍵のかかる書庫で保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、ご本人の好みや意向を聞き、なるべく希望通りに生活が送れるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「その人らしさを大切に」との理念をかげ、ご利用者のペースに合わせた生活が送れるよう、またそれが実行できているかカンファレンス等で確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿った身だしなみができるよう、自己決定していただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ、取り分け、後片付けなど出来ることは積極的に行って頂いている。また、器や食材の彩りにも気を配り、食事が楽しくなるよう工夫している。	食材業者から毎日配達があり、ユニット毎に職員が調理を行っている。利用者は下膳や食器ふきなどを手伝っている。誕生会には本人の希望する料理を提供している。すしや釜飯など出前をとることもある。外食を希望する場合は送迎バスがある所を探し、対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	担当医や看護師のアドバイスを もとに、食事量や水分量を介護 記録に記入し、ご本人の状態に 応じたケアをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行っている。 ご自分で出来ないご利用者 には、職員が介助し清潔保持を している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひと りの力や排泄のパターン、習慣を活かして、ト イレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っ ている	自立でないご利用者には個々の 週間に合わせた時間に排泄を促 し、自立排泄を支援している。	トイレは各ユニット3か所あり、うち 一つは浴室とつながっている。可動式 の手すりがあり、立位が取れるよう支 援している。排泄チェック表でパター ンを把握し、2時間おきに誘導してい る。職員は携帯用消毒スプレーを持ち 歩いており、使用後は感染対策を行っ ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	食事前、15時に運動。施設内 での歩行運動などをおこなってい る。おやつに乳製品をお出し し、便秘予防をしている。便秘 時には医師や看護師にアドバイ スを受ける。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴 を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯 を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援 をしている	その日の体調、ご本人の希望に 合わせ入浴していただいている。	浴室には温風暖房機があり、脱衣所は 床暖房と小型のヒーターでヒートショ ックを防いでいる。週に3回の方が多 く、希望すれば毎日でも入浴はでき る。入浴を好まない利用者には無理強 いせず、翌日にしたり職員を変えたり している。足浴を楽しみにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思にお任せし個々に休息していただいている。特に昼食後は居室で休まれる方が多い。リビングで過ごす事を希望される方もいらっしゃる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診後、薬剤師の服薬指導を受けている。処方箋が変更する場合は、往診記録に処方箋の内容を記入。全員で共有、確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お掃除、洗濯などの家事、炊事をして頂く事により、無くてはならない存在と自覚して頂いている。家事が難しい方には、施設内の飾りつけなどお願いし作品を張り出している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員とともにスーパーに買い物に出かけたり、歩行の安定している方は、ファーストフードに行き気分転換している。年に一度は外食先のバスに乗り和食店で誕生日会を開催している。	近くの店やコンビニエンスストアに散歩がてら、買い物に行く。天気の良い日は必ず散歩に出かるようにしており、利用者は富士山や早淵川の亀を見ることを楽しみにしている。ベランダでは外気浴や入浴剤入りの足湯を行っている。送迎車のある店に外食に行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは、お預かりしているが、ご本人が希望する物があれば、一緒に買い物に出かける。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望でご家族に電話をかけていただいている。手紙を書ける方はいないが、ご家族からのお手紙をお渡しし、返事はお電話をかけ、ご家族に繋げている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の清潔の保持（手すりなどの消毒）や空調の温度差の変化がないように努めている。室内は季節にあった装飾をご利用者と作成したり、華やかさの中に落ち着きがある色彩になるよう工夫している。	居間は明るく、台所が中央にあり作業をしながら利用者の様子が見られる。畳の部屋で会議などを行う。廊下には行事の写真が飾られ、季節柄クリスマスの飾り物が至る所に飾られている。掃除は、毎日利用者と職員が行い、年に2回業者の清掃がある。冬場は特に感染症対策を十分に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階では廊下奥に応接セットがあり、ご利用者が集まり歌を歌ったりおしゃべりを楽しまれている。1階にはスペースがないため独りになりたいご利用者は居室で過ごされる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご家族とご本人が話し合い、日常生活で使い慣れたものや必要とするものをお持ちいただいている。	居室はクローゼット、照明器具、カーテンなどは備え付けであるが、そのほかのベッドやタンス、机、いすなどは思い思いの品を持ち込んでいる。利用者家族が居室をしつらえており、できるだけ自宅に近い状態を保っている。テレビや仏壇、化粧道具などのほか、趣味や現役時代の仕事関係のものを飾り、居心地がよいよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の随所に手すりがあり転倒防止しながら自力歩行できるよう工夫している。トイレや浴室、居室が一目で分かるよう名前やマークなどを貼り、工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ニキイヤセン-横浜南山田

作成日 平成28年 3月 30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	Ⅲ	ご利用者の終末期をどう迎えて頂くのか、施設のかかりつけ医、ご家族、そして一番関わる職員の方とどう連携していくのか、会社の方針とどう取り組んでいくのか課題です。	職員全員が会社の方針をふまえて、一人一人の終末期を迎えて頂ける様、職員一人一人が研修等に参加レベルアップしていく。	会社で行われる研修や外部研修への参加、会議やカンファレンスで話し合い、ご利用者にもご家族にもご一層安心して頂けるよう取り組む	平成28年6月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。